

国際条約と国際秩序

前回は、国際捕鯨裁判に関するシンポジウムでの発言をきっかけに、科学と正義の問題について、意見を述べた。シンポジウムでは確かに発言しておきながら、ブログの文章には書かなかったことがある。そのことは、たまたま別の会議で話題になったので、そちらで書こうと思ったのだ。別の会議とは、公海における環境や生物保全に関する国際条約に関するもので、外務省は対応方針がわからないので、意見を述べてくれということだった。シンポジウムで発言しておきながら、文章に残さなかったのは、「国際条約、国際法の世界を素人が見ると、まるで、客の増加に伴って無計画に増築した田舎の温泉旅館のように、一定の論理に基づき、論理的な一貫性、秩序、構造がない世界にみえる。」ということである。

案外、このことは知られていないかもしれない。国際秩序というものが、世界政府のようなものによって維持管理されていて、その世界政府が国連だと思っている。あるいは、国連憲章が基本法でその下に、過不足なく、様々な国際法が整然と並べられていると誤解している人が案外いるのかもしれない。確かに、国連は最大の国際機関だが、国連に加入していない国もある。また、台湾のように、国連が合意形成から不自然に排除している国もある（台湾が国連から追放されているのかどうかその解釈についても曖昧ではあるが。）。国際条約の中には、当然、国連成立前に締結されたものもあるから、すべての国際条約が国連のシステムの中にあるわけではない。国際条約というものは、その締結国間の合意によって作られている。ある条約が作られるとき、他の条約との整合性や重複などがきちんと論じられて、条約間での調整が行われて、条約の内容が決まるわけでもない。だから、当然、条約間で重複があったり、矛盾があったりする。これは、国際条約というものが締結国間の必要によって作られるものだから、やむを得ない。その結果として、田舎の温泉旅館のようになるのである。つまり、様々な国際条約は、それぞれ必要に応じて作られたものであり、それら全体を貫く「正義」や論理があるわけではない。それぞれが納得いき利害対立が先鋭化しないように、さまざまな工夫がなされて経験的に作られているのである。それでは困るような気もするが、実際には、そうした経験主義的な試行錯誤によって、現在の国際秩序がまがりなりにも保たれている。経験ある外交官はそういうことがわかっている。だから、どのように妥協するかを考えて、全体の合意に持ち込もうとする。

しかし、最近では、国際会議に NGO が参加したり、外交官そのものが素人化したりして、国際条約や国際合意とはそういうものだという理解が欠けていて、国際合意の場面で自らの「正義」を持ち込もうとすることがしばしばみられる。政治家にも、「正義」の実現のようなことを演ずると選挙に勝ちやすいというような打算が見られる。ましてや、マスコミ人はこういう議論が大好きである（特定の国を揶揄する気持ちはありません。どこの国も似たようなものです。）。国際間で大切なことは、合意の形成であり、相互の妥協によって秩序を保つことである。

もう一つ、気になることは、**precocious approach** という考え方である。予防的措置というのだろうか。この考え方そのものは悪くないし、実際、予防的に行わなければならないことはある。しかし、今ある世界の秩序は、実際の経験を経て、試行錯誤的に作られたものであって、あらかじめ、すべてを予見可能なものとして作ってきたわけではない。もちろん、取り返しがつかないことになったらどうするのだという考え方はあるのだが、私たちは、日常いつでも、取り返しがつかないことになったらどうしようと考えて行動しているわけではない。取り返しがつかないことになったらいけないと考え始めたら、何もできない。息を吸ったって、空気に毒物が入っていれば取り返しがつかないことになる。問題はやはりその確率をどう考えるかである。不必要に予防的になることは明らかに不合理である。冷酷なことを言えば、何か取り返しがつかないことが起きて、誰かが死んだとしても、取り返しがつかないのはその死んだ人であって、他の人はその人の経験に学んで、取り返しがつかない行為をしないよう行動を改めればよいのだから、取り返しがつく。取り返しがつかないから云々という議論は、かなり恣意的に、その人が気に入らないあることだけを取り上げて、取り返しがつかないと言っているのである。こういう論理が人を巻き込み始めると、少数者や弱者のいじめにつながる。やはり、あることによって、具体的に自分が損、被害を蒙ることが、具体的に予測されるのでやめてくれないか、あるいは、あることによって、利益を得ることが具体的に期待できるので、何かをしましょうというのが、合意の基本なのである。

となると、やはり、田舎の温泉旅館構造はさけられない。